

調査・研修等計画届出書

令和 6 年 9 月 30 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 長江 公夫

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和 6 年 10 月 17 日から 10 月 18 日まで (1 泊 2 日)	
調査先・研修名	第 86 回全国都市問題会議	
会場名 (会場所在地)	アクリエひめじ (姫路市文化コンベンションセンター)	
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	議題：健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～ 第 1 日目 10 月 17 日 ・基調講演 生物学者・青山学院大学教授 福岡伸一氏 ・主報告 兵庫県姫路市長 清元秀泰氏 ・一般報告 筑波大学システム情報系教授 谷口守氏 千葉県流山市長 井崎義治氏 他 1 名 第 2 日目 10 月 18 日 ・パネルディスカッション を通じて、全国的な動きや傾向、先進事例を学ぶことで、本市議会との差異を知り、今後の議会活動の向上に繋げていく。	
議長名の依頼	要 ☒ 不要 ☐	依頼先 (名称)
同行者名	馬嶋みゆき 松原大介	

※行程表を添付してください。

調 査 ・ 研 修 等 報 告 書

令和 6 年 11 月 15 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 長江 公夫

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 6 年 10 月 17 日から 10 月 18 日まで (1 泊 2 日)
調査先・研修名	第 86 回全国都市問題会議
会場名 (会場所在地)	アクリエひめじ (姫路市文化コンベンションセンター)
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	議題：健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～ 第 1 日目 10 月 17 日 ・基調講演 生物学者・青山学院大学教授 福岡伸一氏 ・主報告 兵庫県姫路市長 清元秀泰氏 ・一般報告 筑波大学システム情報系教授 谷口守氏 千葉県流山市長 井崎義治氏 他 1 名 第 2 日目 10 月 18 日 ・パネルディスカッション を通じて、全国的な動きや傾向、先進事例を学ぶことで、本市議会との差異を知り、今後の議会活動の向上に繋げていく。

10/17(木)第一日目

・基調講演 生物科学者 青山学院大学教授 福岡 伸一氏

「生命を捉えなおすー動的均衡の視点からー」

(要旨)

1. 動的均衡は、ユダヤ人科学者の「ルドルフ・シェーンハイマー」の生命観であり、これまでの分子をミクロへと分解していき、そのメカニズムで物を捉えるという要素還元主義に対して、生命は機械ではない「流れ」であるとの生命観である。
2. 動的均衡の生命観は、私たちの体が、時間の関数として絶えず変化しつつ、それでいて柔軟で、適応的で、補完的であり、同時にレジリエントなものであることを説明してくれるものである。

(所感)

1. ともしれば、物事を分解し、細かく細分化して原因を追究することやそのメカニズムの解明のためにその構成要素を分析するという思考を優先しがちである。それは、「木を見て森を見ない」ということにもつながるのであり、人の「営み」の中で、全体のバランスを保ちながら生きているという物事の捉え方もあることを改めて感じました。

・主報告 兵庫県姫路市長 清元秀泰氏

「市民の LIFE(命・くらし・一生)を守り支える姫路の健康づくりとまちづくり」

(要旨)

1. 姫路市は県内で二番目となる人口約 52 万人を有する中核都市であり、市民の「LIFE」(命・くらし・一生)を守り支えることを市政の基本方針としており、市民の健康増進に向けた施策を積極的に展開している。
2. 姫路市の取り組みについて
 - ・主体的な介護予防を促進・「通いの場」への参加促進や認知症への進行予防支援を行う。
 - ・生活習慣の改善並びに各種疾病の早期発見及び重症化予防・情報の発信と行動変容を促す。
 - ・「居心地がよく歩きたくなるまちなか」の形成・外出、出会い、交流の創出
 - ・ICT を活用した健康づくり・マイナンバーカードを活用した救急業務の迅速化・円滑化と「ひめじポイント」を活用。
 - ・こどもの未来健康支援センターの開設や子育て応援アプリの活用。
3. 健康づくり促進には、自らが健康増進に資する活動へ積極的に参画するとともに、日々の生活を送る中で自然と健康になれるような社会環境を構築していくことが必要である。

(所感)

1. 高齢者向けの施策として「通いの場」が市内約 470 か所もあり週一回程度の「いきいき百歳体操」を開催しているとのことであり、そこで行うスクリーニングにより認知症への進行予防を支援しており、行政としての積極的な関与が行われおるようであり、本市でも「通いの場」を如何に活用していくのかが求められるものと思います。
2. 幅広い世代の心身両面における健康づくりのために、公共空間の利活用や歩行者利便増進道路の整備に取り組まれており、本市でもかつて河川敷などの活用を図る取り組みもあったが、改めて検討することも必要であると思いました。
3. 救急業務にマイナンバーカードを活用しての搬送時間等を短縮する取り組みは、本市でもその活用を検討すべきであると思いました。

・一般報告 筑波大学システム情報系教授 谷口 守氏

「生き物から学ぶ健康なまちづくり」

(要旨)

1. 市民の健康と都市の健康はさまざまな面で密接に関係しているのであり、生き物から学ぶという姿勢が極めて有効である・・現代の都市は生活習慣病に罹患している。
2. 都市の病気とは、例えば
 - ・循環不全・・健康体を支えるはずの血管ネットワーク(交通ネットワーク)が計画段階において各所で不整合を起こしている。
 - ・肥満・・その人口などの規模に応じて、公共交通と歩ける範囲でコンパクトに展開するべき。
 - ・骨粗しょう症やがん・・空き家や空き地の増加、ピンポイントに肥大化する現象も生じている。
3. 周囲と協調しながら都市構造の体質改善を図っていくことが必要である。

(所感)

1. 本市もコンパクトシティ化をまちづくりの基本としており、それを都市圏というより広い範囲で見ると、逆の分散化になっていないのかという指摘については、改めて検討しなければならない課題であると思いました。
2. 少しでも歩く人を増やしていく都市政策が必要との指摘は、おのおの市町村で協調しながら公共交通網を整備して、移動できる範囲を広げることを考えていく必要性を感じました。

・一般報告 千葉県流山市長 井崎 義治氏

「都市そのものを健康にするまちづくり」

～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまちへ～

(要旨)

1. 「健康都市」・・・すべての政策分野において、健康を考慮した政策を形成しかつ推進することで、都市生活における市民のストレスを軽減し、リフレッシュできる環境を創ることである。

2. グリーンチェーン戦略及び認定制度を実施して、開発で失った緑を回復するようにしたことで、景観価値や環境価値、そして資産価値を高めることになった。

(所感)

1. SWOT 分析を行い、強みと弱みを把握し成功のための途を探った結果、緑の回復と健康づくりが必要とのことで、都市のイメージ、定住人口の増加、交流人口の増加を目指したものである・・・緑豊かで安らぎを感じることのできる街並みが続くものとすれば、市民の健康づくりにも大きく寄与するものと考えられるのであり、最近では、周辺地域でのミニ開発も行われている中で、緑の保全という視点も必要であると思いました。

・一般報告 兵庫県立大学副学長 畑 豊氏

「IT/AI の健康分野への適用例」～姫路市の健診データ解析と歌唱による誤嚥予防～

(要旨)

1. 健診結果の解析にファジイ値(健康ならば 1,0 不健康ならば 0.0 と考える)を用いた分析は、毎年の健診での状況を把握できる指標ともなり、また嚥下機能維持のための方策として歌唱を推奨するのは、高齢者の嚥下機能の維持のためでもある。

(所感)

1. 健康状態の正しい把握が予防や治療につながるものとなり、自身の行動変容につながるものとしての役割を果たすようにすべきであり、健診の受診率だけではなく、例えばオーダーメイド的な個々人の健康状態に合わせた分析と対策を示すことのできるようにしていく必要がある。

調査先（主な質疑・応答内容） ／ 研修（受講後の感想）

10/18(金)・第二日目 パネルディスカッション 「健康づくりによるまちづくり」

・コーディネーター 中央大学法学部教授	宮本 太郎氏
・パネリスト 高岡病院児童精神科医	三木 宗弘氏
NPO 法人日本栄養パトネット理事長	奥村 圭子氏
長野県茅野市長	今井 敦氏
大阪府和泉大野市長	南出 賢一氏

(各氏の発言要旨)

(宮本氏)

・健康への関心の高まりに伴い、病気か健康かの中間ゾーンの人たちが増えており、限られた医療資源にどのようにつなげていくのが課題である。

・イングランドでは薬と場の処方箋を交付している・・・薬だけではなく社会的な処方箋で病気を治す取り組みも参考とすべきではないかと考える。

(三木)

- ・未来の子どもたちをより良き市民に育てるために、まずは大人が健康になることが必要で、そのうえで子どもたちを心理面からも健康面からも支えるようにすべきである。

(奥村)

- ・様々な市町村で栄養パトロールに取り組んでおり、食から健康を支援している。

(今井)

- ・国のスーパーシティ構想にエントリーして、様々な面でデジタルを活用している。

(南出)

- ・未病予防対策のために、健康づくり条例を制定している。

・その後、食育やデジタルの技術の活用などについての、ディスカッションが行われたのであり、「様々な人間の持つ弱さ」をいかに包括してフォローする社会を形成するのか、さらには心や体の栄養を得るために、どのような地域社会を形成していくのかを考えていく必要があるものと思いました。

調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

・第一日目を通して

・姫路市の市民自らが健康増進に資する活動へ積極的に参加する、さらに日々の生活の中で自然と健康になれるような社会環境を構築していくということはどこの市町村でも必要とされる事であろう。社会保障施策としてこの分野に注力していくことは出来ても、積極的に都市基盤整備や観光施策などにもその考え方を及ぼしていくためには、総合計画等にその骨格となる基本的な方針として位置付ける必要があると思います。

・しかしながら、都市は病気に罹患するという生物模倣の考え方によれば、まさしく、コンパクトシティ化の都市形成を目指す本市においても、健康になるために様々な対処療法や投薬が必要であり、人を治療するように都市の健康を回復するためにどのような治療を施すのかの視点も大切であると改めて実感しました。

・分析という行為で事象を細分化して探求していくという、いわばミクロの世界に向かっていくことが多いように思いますが、「動的平衡」という考え方に始めて触れました。生命という対象を探求するには適したものかもしれませんが、社会事象や人間の行動などをどのように説明されるのか、機会があれば学びたいと思いました。

・第二日目のパネルディスカッションを通して

・食育に力を入れているところでは、市民が自ら体に良いものを選択できる仕組みを整えているところもあり、市民が学ぶことにより得たものをいかにリアル

に、現実の行動変容に変えていくのが大切であるとのことであったが、学んだことや知りえたことを実践や行動にまで結び付けていく事が難しいのであり、例えば講座等に参加する人の数等で評価することの多い行政の手法を変えていく、行動変容にまで結びつくような手法を考えて行く必要があるものと実感しました。

・例えば後期高齢者で支援が必要とされる側も、何にこまっており、何が必要かわからない人たちが存在していることを認識して、これまでのデータからどこに原因があるのかを特定した上で、専門家が対応する仕組みを作っているとのことであったが、これも、いわゆる重層的支援体制整備事業で対応しているようであり、様々な専門家がケース会議を通じてより具体的な対応を可能とする仕組みであり、本市においても行政内部での各部署との連携をより強化していく必要があると思いました。

行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jorudan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金 等	
6 年 10 月 17 日	新瀬戸	名鉄	片道	大曽根	14.1	km	460	円		円
	大曽根	JR	片道	名古屋	9.8	km	4,840	円		円
	名古屋	新幹線	片道	姫路	278.3	km		円	3,930	円
						km		円		円
						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
	東横イン姫路駅新幹線北口				079-226-1045		9,400 円			
備考欄										

18,630 円

日付	出発駅	交通手段	片道 ／ 往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金	等
6 年 10 月 18 日	姫路	新幹線	片道	名古屋	278.3	km		円	4,660	円
	名古屋	JR	片道	大曽根	9.8	km	4,840	円		円
	大曽根	名鉄	片道	新瀬戸	14.1	km	460	円		円
						km		円		円
						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
							円			
備考欄										

小計 9,960 円

日付	出発駅	交通手段	片道／往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金	等
年 月 日						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
							円			
備考欄										

パック等による割引など 小計 0 円

400 円

宿泊費 合計

交通費 合計

9,400 円

19,190 円

申請額合計 (宿泊費+交通費-割引代)
28,190 円